

令和8年（2026年）度事業評価シート

令和 8 年 6 月 30 日

評価対象事業	都整 - 19		街路照明灯事業					☐ 法定受託事務		
所管課	都市整備部 道路河川管理課					評価者	道路河川管理課長 秋山 崇			
一般	会計	款	45	項	5	目	5			
総合計画上の位置付け	分野名	道路整備			施策の方針名		道路・橋りょうの整備・維持管理			

1 事業の目的

対象	市民等	意図	夜間等の通行車両や市民等の安全確保のため。
効果	道路の街路照明灯の良好な維持管理を図る。		

2 事業工程と運営資源配分

■ 単年度事業 □ 終期のある事業 （事業終了予定年度： 年度） ■ 単年度繰返

	令和7年度	令和8年度	令和9年度（未定）
事業工程	既存の街路照明灯の維持修繕等を行い、市民が安全な生活を送れるまちの創造、街路照明灯の設置整備	（道路施設管理事業に統合）	
予算額（千円）	21,410		
国県支出金			
地方債			
その他	7,899		
一般財源	13,511	0	0
当初人員配置数	0.4	0.0	0.0
人件費（千円）	3,415	0	0
事業実績	既存の街路照明灯の維持修繕等を行い、市民が安全な生活を送れるまちの創造、街路照明灯の設置整備		
決算額（千円）	17,801		
国県支出金			
地方債			
その他	5,781		
一般財源	12,020	0	0
人員配置実績数	0.4	0.0	0.0
人件費（千円）	3,313	0	0

3 活動結果（アウトプット）指標

No	活動結果（アウトプット）指標	単位	初期値	目標値 目指す方向	R7 （上段実績、下段経費（千円）	R8	R9
活1	指標名 街路照明灯の修繕要望に関する対応件数	件	15	ㇿ	28		
	実績につながる活動 街路照明灯の修繕要望に対応し、夜間等の交通の安全と円滑化を図った。				-		

活動結果指標の実績に影響を与えた外部要因	・活動結果指標（アウトプット）の実績に影響する外部要因はなかった。
本事業実施に伴う活動結果指標の達成状況に対する評価	・街路照明灯の修繕を迅速に行い、夜間等の交通の安全と円滑化を図った。 ・一方で、現地確認の結果、樹木の枝払いをしないと修繕作業に入れないなど、対応に時間を要するケースもあった。

4 成果（活動による直接アウトカム）指標

No	成果（アウトカム）指標の内容	単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9	関連する活動結果指標No （最大3つ）
					実績			
成1	街路照明灯の修繕等に関する要望件数	件	15	㇏	28			1

成果指標の実績に影響を与えた外部要因	実績に影響する外部要因はなかった。
本事業実施に伴う成果指標の達成状況に対する評価	・成果指標No.1について、令和7年度の要望件数は28件であり、初期値（令和6年度要望件数）より増加する結果となった。増加する要因としては、照明灯の不点灯や照明灯周辺の枝の伐採が想定される。
活動結果指標と成果指標結果の比較分析（寄与度）	・要望件数は28件であったが、対応率は89.3%であり、夜間等の交通安全と円滑化に向け、迅速に対応した。

5 評価結果

評価	妥 当 性	事業に対するニーズ	■ 増えている	□ 変わらない	□ 減少している	
		事業実施の主体となるべき者	■ 市	□ 国・県	□ 民間事業者 □ なし	
	有 効 性	事業の成果	□ 十分に出ている	■ 概ね出ている	□ 出していない	
	効 率 性	事業費削減余地	□ ある	■ なし		
		関連・類似事業との統合	□ できる	■ できない		
公 平 性	受益者負担	□ 導入済	□ 導入予定	■ 導入できない		
方向性		評価実施年度の方向性	⇒ 評価実施翌年度以降の方向性			
	事業内容の方向性	□ 事業内容は現状通り □ 事業内容は見直し済 □ 事業を休止又は廃止済 ■ 他事業と統合済	⇒	□ ① 事業内容は現状通りとする □ ② 事業内容は見直す □ ③ 事業は休止又は廃止する □ ④ 他事業と統合し、本事業は廃止する	→ □ 拡大 □ 縮小 □ その他	事業へ統合
	予算規模の方向性	■ 予算規模は現状維持 □ 予算規模は拡大済 □ 予算規模を縮小済	⇒	■ ① 予算規模は現状維持とする □ ② 予算規模は拡大する □ ③ 予算規模は縮小する		
今後の取組方針（見直し方針）	課題への対応		結果	具体的な内容		
	前年度の新たな課題への対応結果		前年度は新たな課題なし			
	活動結果指標や成果指標の達成状況に影響を与える新たな課題		新たな課題あり	街路照明灯の約半数のリース契約が令和8年3月に満了し、令和8年度は街路照明灯の管理が市とリース会社に二分されることから、維持修繕の対応に差が出ないように、引き続き迅速に対応する。		
	新たな課題に対応するための新規事業の必要性		新規事業の必要性あり	街路照明灯の夜間等の交通安全確保という従来の目的に加え、今後はIoT技術を活用したスマート街路照明灯の有効性や導入可能性について、調査・研究を進めていく。		
	総評	街路照明灯の不点灯等の発生は、夜間の交通安全性を損なうことから、迅速な修繕対応が求められる。しかし、現在は市民等から通報を受けるまでは、不点灯等の状況を把握することができず、また夜間における職員の現場パトロールの実施にも課題があり、修繕対応まで時間を要すケースもある。このことから、街路照明灯の本来の設置目的に加え、IoT技術の活用による維持管理の高度化を視野に入れた、スマート街路照明灯の導入可能性について、調査・研究を進めていく。				
						A

○ 他市比較・ベンチマーク（県内外自治体や民間団体との比較値）

比較事項									
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績									

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	施設の規模が違うため、他市との比較はなじまない。
----------------------	--------------------------